

【日時】 2011年7月16日(土)～18日(月)

【メンバー】 L小暮、笹川、今井、大平

道の駅漢学の里しただで、暑く寝苦しい夜を過ごし笠堀ダムへ向かう。今年の梅雨明けは例年よりも早く、安定した天気の日連休を迎えてうれしい反面、うだるような暑さで熱中症が心配なほどの気候である。砥沢川に向かう栗原パーティと笠堀ダムまで一緒に行き、佐貫さんの車をお借りして下山口に車を回送する。同じ山域に入るのでにぎやかで楽しいし、車の回送も出来てとても助かった。

笠堀ダムからは、湖岸道を暑さにあえぎながらのアプローチ。ところどころ足場が悪い。2本目の沢が入ったあたりで、単独の地元の釣り屋さんに抜かれる。沢沿いに道がついていることもあり、よく来ているらしい。暑くて早く水に浸かりたいと、東又沢出合あたりまで続く道は使わずにバックウォーター上の枝沢から下降して沢に降り立つ。見下ろす沢は深い緑がキラキラと輝き、夏休みらしい沢に来た感じがとても良い。

本流の河原を少し進むと、いきなり20m程度の淵が現れる。流れも緩やかなので、へつり泳ぎで容易に突破可能なので、各自思い思いに泳いでもらう。続く50m位の淵も泳いで突破。水は全く生温いくらいで冷たさを感じない。日差しも暑いので水に浸かって遡行するが、気持ちよい。その先も泳ぎの箇所が次々と出てくる。下田は初めてという今井さん、大平君は自由に泳いで突破していくような遡行は初めてらしく、しきりに感激の声をあげている。大川出合からは河原が続き、石小屋沢が滝となって出合うと、再び沢は淵



白い花崗岩にエメラルドグリーンの釜が映える



釜の奥にかかる小滝に向かって泳ぐ

が続く。トロの奥の2m滝は、右岸の残置ハーケンにスリングをあぶみとして掛けて突破する。その先の淵も、飛び石やヘツリ、飛び込みなどを駆使して突破していく。大平君も、このような水量の多いところの突破方法に慣れてきたようだ。

狭く暗いゴルジュを泳いで通過していくと、その先のゴルジュを覗いた奥には水量の多い5m滝が掛かっている。わくわくするような光景だが、楽には行かなかった。泳いで滝の手前まで突破したが、滝を登るのは水量が多すぎて取り付くことすら難しそう。滝の左横の大岩と側壁の隙間はハング気味で無理なので、仕方なく左斜面のルンゼ状から登山道まで逃げる。ここまで時間が大分掛かってしまったので、滝上で懸垂下降せずに、そのまま登山道を使い、沢を横切るところまで進む。沢に戻り、エメラルドグリーンの大釜をへつって通過すると、ようやく白根沢出合だ。下流部の淵をひとつずつ泳いで突破したので、予定より時間が掛かってしまい、時刻は既に15時30分。出合の先は天場適地だが、もう少し進んでおきたいので先へ向かう。

少し進むと再び釜が続くようになり、泳いで通過していく。栃ノ木沢が滝で出合い、その先で天場を探すが、なかなか良いところが無い。そうこうしているうちに、先行している3人パーティを発見。

見れば竿を出して釣りをしながら遡行している。我々が泳いだところは、登山道で先行していたようだ。ゴルジュの溪相で抜きようも無いので、釣りをしている姿をゆっくり様子を見てみると、さっそく一人が釣上げている。ここまで、魚影がほとんど無かったのも納得。そのうち釜を高巻き始めたので、ゆっくりゆっくり追いかける。ようやく左岸に河原が現れたので、我々はここで幕とする。3人パーティは、釣上げながらもう少し先まで行くようだ。天場を整えた後、駄目元で釣りをしてみるが全くアタリはない。岩魚は無いが、盛大な焚き火で楽しい夜は更けていった。

翌日も、稜線まで抜けずに沢中で泊まるつもりだったので、のんびりと準備して出発。すぐに釜が出てくるので、今日も楽しい泳ぎが始まる。釜の奥の2m滝は、左の水流際から岩溝をバックアンドフットでよじ登って通過。すぐに東又沢出合についた。これで水量は半分となり、釜のスケールも小さくなって遡行が楽になる。釜をヘツリで通過すると、広い河原がしばらく続く。中滝沢出合を過ぎ、魚影も豊富なので釣りをしながらのんびり遡行する。釣り屋はこちらには来ていないのか、ようやく釣れるようになる。日差しが強く、折角釣った魚が傷んでしまわないか心配だ。すっかり穏やかになった沢を進み、シシマキ沢を過ぎる。

### 気持ちよく泳いで遡行



C.450の沢を1:1の水量で合わせた先で、このあたりは滝が連続する。10mトイ状、8m滝を過ぎると、その先が核心部の100mゴルジュのようだ。暗いゴルジュの中は連瀑となっていて、最初の2m滝を過ぎ、続く2mCS滝をよじ登る。その先の3mCS滝は手がかりが無く厳しい。戻ってゴルジュ手前から巻くか悩むが、結局、この3m滝の右側の側壁を強引に空荷でよじ登り、灌木まで巻き上がる。後続のメンバーはお助け紐を腕力で登ってもらうが、足元が滑りやすく、ちょっと強引だった。そのまま上の5mと10mの滝は巻いてゴルジュの上に降りた。その先も滝が続いて、そろそろ天場になりそうなところがあれば泊まることにする。今回は、ぶなの会の記録でc. 650付近で泊まっているのを参考にしてこのあたりで泊まることを計画していたが、果たして大丈夫か心配になってきた。c.550の沢を過ぎ、慎重にあたりを探すと、左岸の崩壊地の手前に僅かなスペースを発見。4人は寝られないが、3人なら横になれそうな場所があるので、ここを整地してツェルトを張る。すぐ下の平らな岩の上に、タープを張って、これで4人分のスペースとした。ちょっと無理やりだが、稜線に泊まるよりははるかに良いと思う。少し上の平地を焚き火スペースを作り、釣上げた岩魚は塩焼きとムニエルとなり、2泊目の宴会も楽しく過ぎていった。

3日目は、灼熱の藪こぎと稜線歩きが予想されたが、まさしくそのような結果となってしまう。天場から先は小滝が幾つか出てくる。12mトイ状の滝は、水流に沿って登り、落ち口下からお助け紐を投げると長さはぎりぎりだった。一部滑りやすいので、一人ずつ確保して登ってもらう。すぐに源頭の様相となり、水が涸れてしまった。慎重に沢を詰めたつもりだったが、いつの間にか右側の枝沢に入ってしまったようで、しまいには右の支尾根に乗ってしまった。間違いに気付いたが、こうなっては仕方ない。次第に蜜蝋となり、絡みつく枝を潜り抜けて稜線を目指すのが、あまりの暑さに眩暈がしてきた。稜線直下で大休止。大目に汲んだ水をガブ飲みする。こんなときは、日差しが恨めしい。大平君は熱中症間際で息も絶え絶え



暑くてゲンナリ。栗ヶ岳山頂にて。

えのような症状。私も他のメンバーも非常に苦しい。雨量計小屋に出ると、ここからは登山道がついているので歩きやすくなる。一本岳(p.1240)まで登りきると、その先の栗ヶ岳はコルを挟んで登り返した奥にあって少し遠い。へろへろになって栗ヶ岳に着いて記念撮影。願いが通じたのか、空はやや雲がかかるようになり日差しが少し和らいで助かった。山頂からは、3時間の暑い下山で、初日のように水に浸かりたいなあと思いつつ登山道を下っていった。

今回の沢は、バックウォーターからのんびり泳ぎながら遡行したおかげで、たっぷりと泳ぎを満喫でき、新人の大平君、今井さんも大変満足してくれたようで非常に良かった。2日目も釣りと、焚き火を存分に楽しむことが出来て楽しかった。最後の藪こぎと熱中症になり

そんな登山道には閉口したが、全体を通じて思い出に残る楽しい沢だった。

### 【メンバー雑感】

下流部で、大平君、今井さんがひたすら感動していたのが、新鮮だった。久しぶりの3日間の沢旅で、良いリハビリとなりました。(笹川)



バックウォーターから遡行できるとは思ってなかったので、とてもうれしかった！ 壮大なゴルジュの中をゆったり流れるエメラルドグリーンの沢の中をへつったりジャンプして飛び込んだり流されたり・・・あんなに自由に泳いだの始めて！！ 真夏にぴったりの沢だなあーと思った。

中流部の大釜や連なるナメ滝の風景も美しかった。イワナも沢山釣れたし♪ただ、酷暑の中の長いヤブコギは本当に辛かった。担いだ水2.5L、全部飲んでしまった。あんなに大量の水飲んだの始めてだったけれど、あの時の水は本当に美味しかった。たまにかすかに感じる雪渓からの涼しい風が気持ち良かった。思いっきり泳いだり、大汗かいたり・・・と、全力尽くせて充実感でいっぱいです。(今井)

天気にも恵まれて、満足いく2泊3日を過ごすことができました。下部からの泳ぎもボリュームたっぷりでしたので、沢自体もきれいで、イワナも堪能できて、沢の楽しさを体感できました。

今回は、滝や泳ぎで引っ張り上げてもらってばかりでしたので、小暮さんには本当に感謝しています。今後は、自分で突破できるようもっと精進していきたいです。それと、最後の登山道でバテしてしまったので、もっと体力つけなきゃと思いました。

今回は、ご一緒させて頂きましてありがとうございました。(大平)

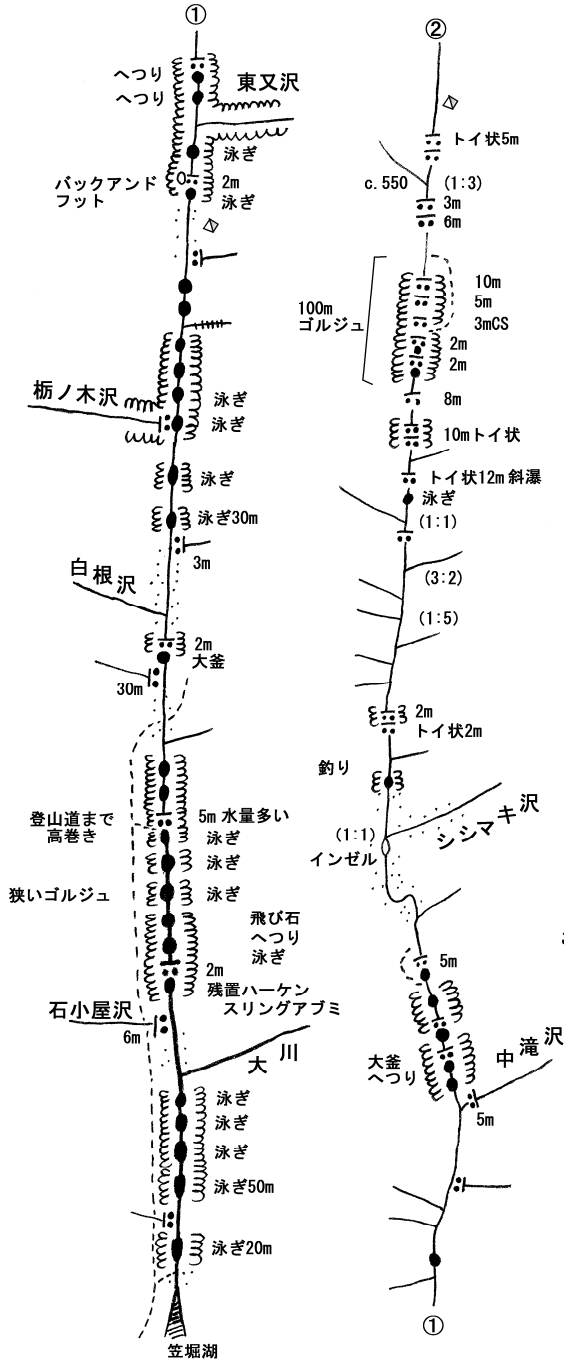


### 【行程】

- 7/16 笠堀ダム(8:15)～出合バックウォーター(10:30/50)～大川出合(12:05)～白根沢出合(15:30)～東又沢手前 c.1(17:05)
- 7/17 c.1(7:15)～東又沢出合(7:35)～中滝沢出合(9:45)～シシマキ沢出合(11:40)～c.600付近 c.2(15:00)
- 7/18 c.2(6:25)～水涸れる(7:45/8:00)～雨量計小屋(10:20)～粟ヶ岳(11:25/45)～五百川登山口(14:55)



【地図】 粟ヶ岳 光明山 越後白山  
 【グレード】 3級上 (下流部省略の場合3級)



光来出川遊行図  
 2011.7.16~18  
 小暮、笹川、大平、今井  
 作図(小暮)

